

(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は弱まっている。

- ・ 鉱工業生産は減少している。
- ・ 個人消費は弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は弱含んでいる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_ は上方に変更、 _ は下方に変更)

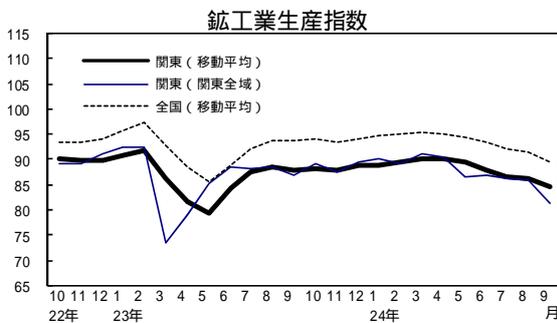
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 24 年 8 月)	今回 (平成 24 年 11 月)	
景況判断	持ち直しのテンポが緩やか	弱まっている	
鉱工業生産	おおむね横ばい	減少	
個人消費	緩やかに持ち直し	弱い動き	
住宅建設	増加	おおむね横ばい	
雇用情勢	持ち直し	弱含み	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は減少している。(関東全域)

輸送機械は、エコカー補助金による政策効果の一巡等により、乗用車等で減産がみられたこと等から減少している。一般機械は、国内市場向け蒸気タービン部品の大幅な減産の影響等により減少している。電気機械は、半導体・IC測定器のアジアへの輸出が大幅に落ち込んだこと等により減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

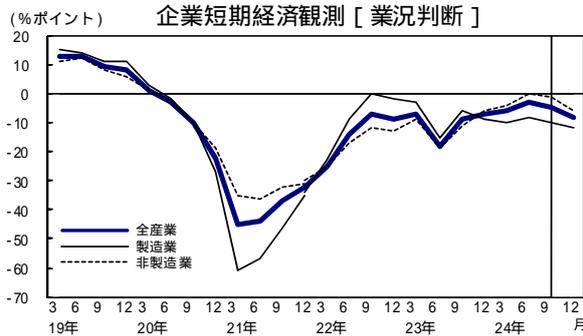
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
輸送機械	15.2	4.3	11.9	16.0	10.3
化学	13.4	2.9			
一般機械	13.2	0.0	5.3	5.3	6.9
電気機械	7.8	0.2	5.2	5.3	2.0
食料品・たばこ	7.1	2.2			
鉱工業	100.0	2.3	4.0	4.9	5.5

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
 2. 7~9月期は速報値。化学、食料品・たばこは、速報値では公表されていない。

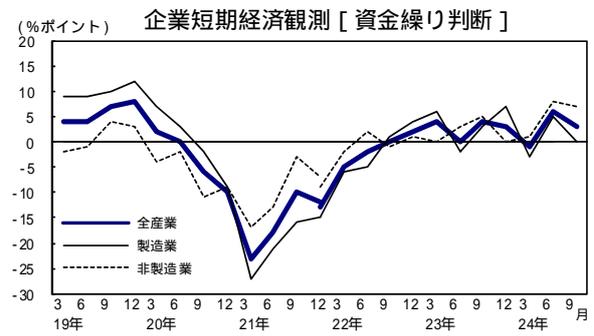
- (備考) 1. 17年=100、季節調整値。関東の最新月は速報値。
 2. 全国及び関東の大線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が縮小している。

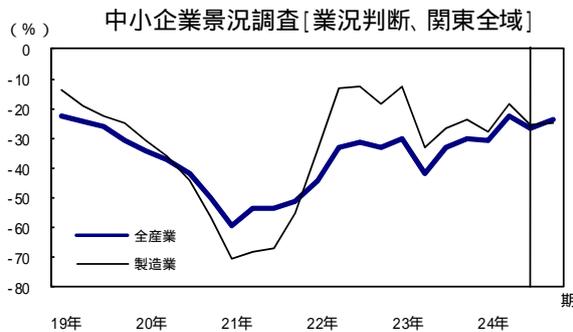
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。24年12月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。
関東全域(新潟県を含む)



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。
日本銀行前橋支店管内。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。24年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「大手主力自動車メーカーの受注について、3か月の生産見通しと実数との間のかい離が下振れで若干生じてきている。要因は、アメリカについてはほぼ変わらないが、中国、欧州向けの輸出が減少したためである(輸送用機械器具製造業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

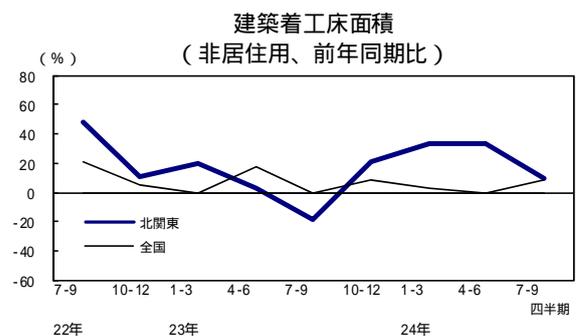
(3) 24年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

(前年度比、%)

	23年度実績	24年度計画
全産業	22.1	2.6(0.2)
製造業	31.8	4.4(1.6)
非製造業	5.6	1.0(2.9)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。
調査対象は日本銀行前橋支店管内。



(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は弱い動きとなっている。

大型小売店販売額

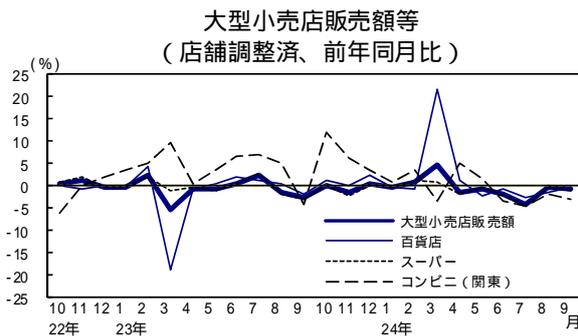
大型小売店販売額は、前年同期比で1.8%減、前期比で0.9%減となった。

百貨店は、7月は、休日日数が少なかったことや天候不順の影響、セール分散化等の影響により前年を下回った。8月は、前年の反動等により高額商品を中心に前年を下回った。9月は、「婦人・子供服・洋品」が低調であった影響を受け、前年を下回った。

スーパーは、猛暑の影響で涼味商品が好調であったが、季節商材の伸び悩み、野菜の相場安等の影響で前年を下回った。

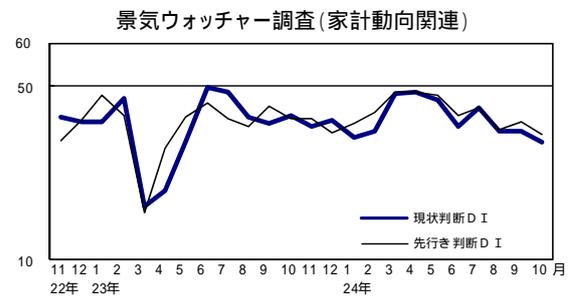
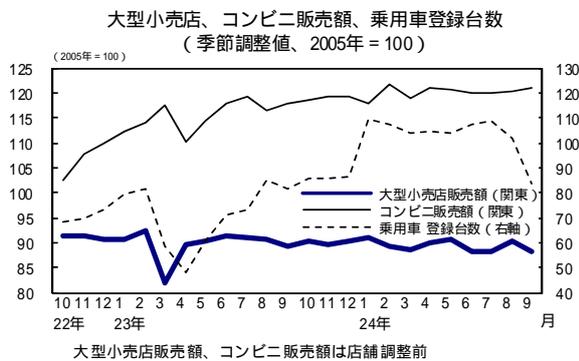
景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「客単価、買上点数に変化は見られず、消費意欲もあまり変化は見られない(コンビニ)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	23年10-12月	24年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店(*1)	0.2	1.8	1.2	1.8
百貨店(*1)	1.4	6.5	0.6	1.5
スーパー(*1)	0.6	0.7	1.4	1.9
大型小売店(*2)	2.0	3.2	0.8	1.3
(季節調整値)(*3)	(0.2)	(0.6)	(0.1)	(0.9)
乗用車(*4)	21.4	50.1	73.4	21.3
(季節調整値)(*4)	(7.4)	(24.5)	(1.5)	(6.7)

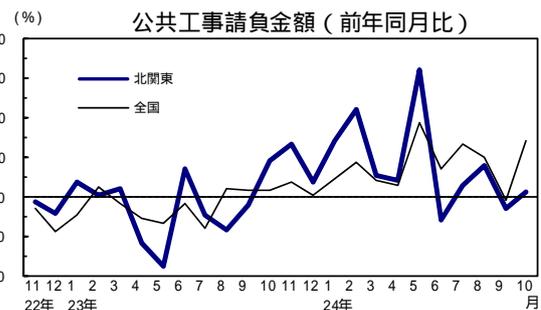
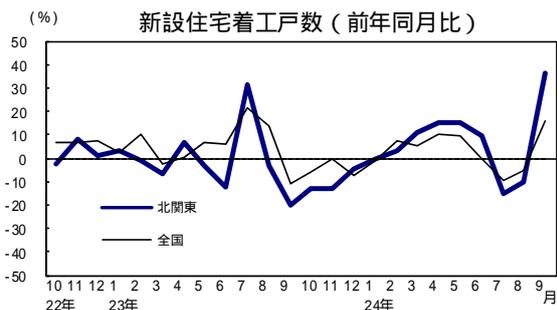
- (備考)1.北関東地域、店舗調整済、前年同期比(%)、7-9月は速報値
 2.北関東地域、店舗調整前、前年同期比(%)、7-9月は速報値
 3.関東全域、店舗調整前、前期比(%)
 4.乗用車は新規登録・届出台数
 (上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

貸家、分譲が前年を上回ったものの、持家が前年を下回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は24年度累計で見ると前年度を上回っている。

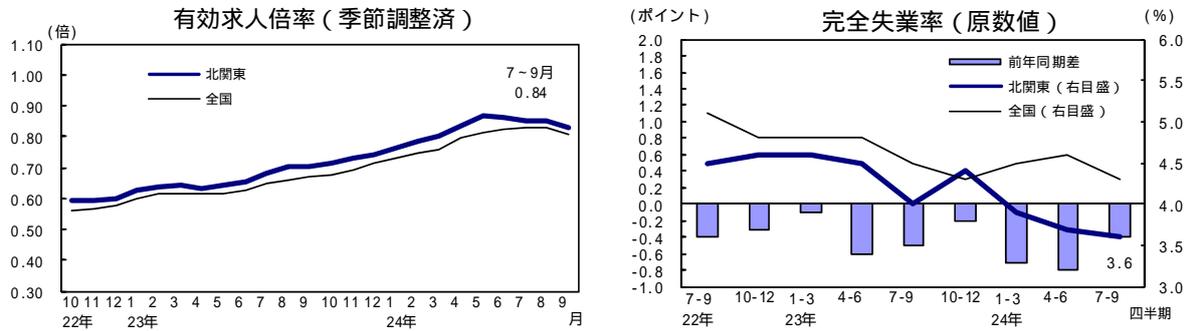


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は弱含んでいる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月)[雇用関連(現状)]

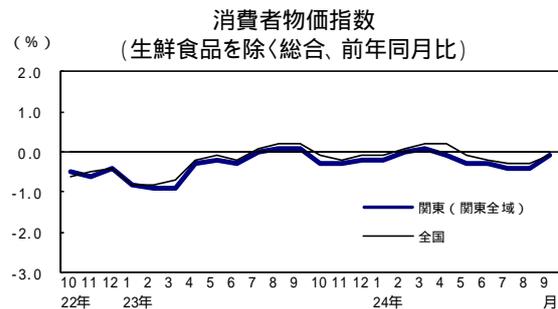
「新規求人数は前年比 16%増となっているが、前年は東日本大震災による落ち込みもあるため、今年度は例年並みの数値となっている(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は増加しているものの、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年10-12月	24年1-3月	4-6月	7-9月	24年10月
倒産件数	156	159	158	151	53
(前年比)	8.2	5.9	14.6	3.4	3.9
負債総額	1,015	396	502	280	103
(前年比)	89.8	7.7	34.0	94.0	16.4



景気ウォッチャー調査 (10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・白物家電、エアコン、冷蔵庫等の動きが少し良くなってきている。また、リフォーム、太陽光発電も順調に動いてきているため、若干良くなっていきそうである(一般小売店[家電])

<先行き>

- ・秋の行楽シーズン、紅葉狩り等、人の移動があるため、やや良くなる。また、クリスマスや年末年始の予約獲得において、きめ細かくしっかり展開していけば大丈夫だと思える(コンビニ)

